学校番号	１００１

令和５年度　地理歴史科

教科	世界史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新版世界史Ａ新訂版（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の理解には地理的空間の理解が不可欠です。歴史的な内容の理解と合わせて諸外国の地理的関係の理解も深めましょう。
・日常生活では使わない語句が多く登場します。教科書をよく読み、語句の理解にも努めましょう。
・歴史的事象の因果関係を理解し、その歴史的事象が現在の日本の情勢や世界情勢にどのような影響を及ぼしているのかも理解できるようにしましょう。

２　学習の到達目標

・教科書の内容が理解できる。
・世界地理の知識を用い、空間的理解ができる。
・歴史的事象の因果関係を説明できる。
・歴史的事象が現在の日本の情勢や世界情勢にどのような影響を及ぼしているかを説明することができる。
・現代社会の諸問題に対し、歴史的知識を用いて考察する力が身につく。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・授業の趣旨を理解し、高い関心を持って主体的に参加しているか。	・授業中に提示する課題に対し、その趣旨を理解し、深い考察と独自の視座を持つことができているか。 ・またその深い考察と独自の視座を他者に的確に伝えることができているか。	・各種文字史料や地図、表、グラフの情報を読み取り、そこから歴史的事象の要因を読み取ったり、因果関係を深く理解したりすることができているか。 ・自分の理解を他者に的確に伝えることができているか。	・授業での取り組みを踏まえて、歴史的事象に対し、因果関係の基本的な理解ができているか。
評価方法	・授業への参加のようす。 ・授業プリントの記入内容と提出状況。	・グループワークでの討論・発表のようす、成果物の内容。 ・模擬授業での取り組みのようす。	・グループワークでの討論・発表のようす、成果物の内容。 ・模擬授業での取り組みのようす。 ・定期考査	・グループワークでの討論・発表のようす、成果物の内容。 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	D		
4	地球社会と日本	急変する人類社会	○	○	○	○	a:世界の近現代史を学ぶ意義を理解し、意欲的に授業に取り組んでいるか。 b:工業の発展過程で列強と植民地という関係が生じたことを理解できているか。 c:空間的理解をした上で、列強と植民地の関係を理解できているか。 d:必要な知識を身に着け、歴史的理解ができているか。	授業プリント グループワーク
5 6 7	地球社会と日本	帝国主義時代	○			○	a:現在の国際関係を踏まえて帝国主義時代を学ぶ意義を理解し、意欲的に授業に取り組んでいるか。 d:必要な知識を身に着け、歴史的理解ができているか。	授業プリント 定期考査
8 9 10 11	地球社会と日本	二つの世界大戦	○	○	○	○	a:両大戦が生じざるを得なかった諸要因を理解し、意欲的に授業に取り組んでいるか。 b:両大戦が生じざるを得なかった諸要因を理解し、それについての歴史的教訓を考察することができるか。 c:両大戦が生じざるを得なかった諸要因を理解し、それについての歴史的教訓を十分な説得力をもって他者に説明することができるか。 d:必要な知識を身に着け、歴史的理解ができているか。	授業プリント グループワーク 模擬授業 定期考査
12	地球社会と日本	平和と冷戦	○			○	a:第二次大戦後の国際関係の変容を理解し、意欲的に授業に取り組んでいるか。 d:必要な知識を身に着け、歴史的理解ができているか。	授業プリント 定期考査

1	地球社会と日本	平和と冷戦 現代世界と日本	○	○	○	○	a:冷戦後の多極化する世界構造を理解し、意欲的に授業に取り組んでいるか。 b:現代社会の諸問題についてその要因を踏まえ、日本はどのようにしていくべきか、今後の国際社会はどのようにあるべきかを深く考察することができるか。 c:自分の考察について十分な説得力をもって他者に伝えることができるか。 d:必要な知識を身に着け、歴史的理解ができているか。	授業プリント グループワーク 模擬授業
2 3	地球社会と日本	現代世界と日本	○			○	a: 冷戦後の多極化する世界構造を理解し、意欲的に授業に取り組んでいるか。 d:必要な知識を身に着け、歴史的理解ができているか。	授業プリント 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。